

コミュニケーションの原点を探る - 言葉がわかるとは？ 心が通じるとは？ ロボットの言葉とは？ -

近年、人間の言葉を使った対話技術が、ロボットやおもちゃにまで使われるようになってきました。しかし、次世代の技術を考える時、あらかじめプログラムされた言葉を扱うだけでなく、状況に応じた言葉を獲得する技術や、人間が前提としている「わかりやすさ」の背景にある心のモデルを真剣に考える必要があります。

私達は通常、言葉を使って他人に自分の意思を通じさせることを当然のことと考えています。しかし人間の幼児がどのようにして言葉を話せるようになっていくのか、そこには大きな謎があります。大人達の発する様々な音の中から意味のあるまとまりを取り出し、そこに意味を見出し自分でも使えるようになるという事は、まさに驚異です。このような観点から、まず、今井むつみ講師には、幼児の言語獲得に関する最新の知見についてご講演いただきます。

また、私たちを取り囲む人工物の増加に伴い、これらに対しても自分の意図を効率的に伝える必要が増えつつあります。現在は、人間が各機械ごとにその言葉・使い方・インタフェースを覚えることを強制されている状況ですが、どのようにすれば機械に人間の言葉を理解させることができるのでしょうか？ 岩橋直人講師には、このような観点から、ロボットに人間の言葉を獲得させる研究の最先端を紹介していただきます。

一方で私達が意思を伝達しようとする時、必ずしも言葉を使うとは限りません。言葉が出る前の乳児相手の場合や、大人同士の場合でも、言葉なしに「心が通じる」という感覚を我々は共通してもっています。それはどのようなことなのでしょう？ このような問題を扱う「心の理論」について、子安増生講師に、その枠組とそこから得られた知見をお話ししていただきます。

さらに山本淳一講師には、このような心に関する学問的な知見が、心の発達に障害を持つ子供に対する教育の場面で応用されている事例についてご講演いただきます。

このセミナーが、情報の時代に生きる我々にとって、コミュニケーションとは何か、言葉とは何か、心とは何かを再考するきっかけとなり、人工知能分野での研究や知見が総合されて、人と人の間、人間と人工物の間をよりスムーズにつなぐ技術へとつながっていくことが望まれます。多数の皆様のご聴講をお待ちしています。

日時：2001年11月12日（月）10:30～17:00

場所：早稲田大学国際会議場 3階 第3会議室（新宿区西早稲田1-6-1 Tel.03-5286-1755）

協賛予定：(社)情報処理学会、(社)電子情報通信学会、(社)日本音響学会、(社)計測自動制御学会、(社)日本ロボット学会、(社)日本心理学会、(社)電気学会、日本認知科学会、言語処理学会、日本赤ちゃん学会（順不同）

プログラム

10:30～10:40 開会の挨拶

10:40～11:50 「乳幼児におけることばの学習のメカニズム」 今井むつみ氏（慶應義塾大学）

概要：乳幼児は驚くべきスピードでことばを学習し、語彙を増やしていく。その背後には未知のことばに遭遇したときに暫定的に外延の一事例からそのことばの意味を推論するという即時マッピングのプロセスがある。本講演では乳幼児がどのようなバイアスと情報リソースをどのように用いて即時マッピングを行っているのかを議論する。

11:50～13:00 昼食休憩

13:00～14:10 「人間とのインタラクションによるロボットの言語獲得」

岩橋直人氏（ソニーコンピュータサイエンス研究所）

概要：日常の言語コミュニケーションは、対話者間で共有している認知的経験を基盤として成立するといえる。ロボットに対して、同じようなコミュニケーションを実現したい。身体性を反映した人間とのインタラクションを通してロボットが言語を獲得、運用できるようにする基礎的な試みについて紹介する。

14:20～15:30 「心がわかるとはどういうことか？」 子安増生氏（京都大学）

概要：「人間の心」、「動物の心」、「機械の心」。私たちはいろいろな場面で「心」というものを感じます。この能力は、霊長類としての人類が、進化の過程で獲得し、発展させてきたものであり、今やそれをロボットに移植する試みが行われています。「過剰関連づけ」と「検証」という2つのプロセスに支えられたこの能力について、1970年代末から発展してきた「心の理論」研究を紹介しながら、考えてみたいと思います。

15:40～16:50 「『心の理解』に困難をもつ発達障害児をどう教育・支援するか？」

山本淳一氏（慶應義塾大学）

概要：子どもたちは、幼少期からのまわりの人間とのかかわりの中で、相手のことばを理解したり、それによって相手の「心」を推測したり、対人関係を調整したりすることができるようになる。発達障害児（自閉症児、学習障害児、注意欠陥多動児）の中には、そのようなかたちで「心」を理解することが困難であるように見える子どもたちがいる。「心の理解」が困難であるとはどういう状態なのか？ 何故、「心の理解」が困難であるのか？ それは、個人の行動システムとして、また個人と環境との相互作用システムとしてどのように記述、説明できるのか？ 「心の理解」を教育・支援していくためには、「具体的に」どのような理論と方法論が必要であるのか？ これらのことについて、私たちが行ってきた一連の研究を紹介しながら、「心の理解」をめぐる最新の行動科学、発達臨床心理学、発達障害学の知見について述べていく。

□ 定員：80名（定員になり次第締め切らせていただきます）

□ 参加費：会員 6,000円（協賛学会員・賛助会員の社員の方も含みます。）
非会員 10,000円、学生 2,000円、学生非会員 3,000円

□ 申込先：(社)人工知能学会 事務局 〒162-0821 東京都新宿区津久戸町4-7 OSビル 402号室
account@ai-gakkai.or.jp Tel.03-5261-3401 Fax.03-5261-3402

- 申込方法：氏名，所属，所在地，Tel，Fax，E-mail，参加種別，会員番号（人工知能学会会員の場合）を明記の上，E-mail または Fax にて下記までお申し込みください。また，人工知能学会ホームページからもオンラインでお申し込みになれます。 <http://www.soc.nacsis.ac.jp/jsai/seminar/>
- 参加費振込方法：折り返し参加証，請求書，会場地図等をお送りいたしますので下記口座に参加費をお振込みください。振込用紙には「第41回セミナー参加費」と明記ください。
郵便振替口座：00150-6-193586 人工知能学会
銀行口座：第一勧業銀行飯田橋支店（普）1668449（社）人工知能学会

研究会 <発表募集>

第33回 言語・音声理解と対話処理研究会 (SIG-SLUD) <http://winnie.kuis.kyoto-u.ac.jp/sig-slud>

日時：2001年 11月 5日(月)～ 6(火)
場所：北陸先端科学技術大学院大学 <http://www.jaist.ac.jp/index-jp.html>
テーマ：「なぜインタラクションでなければならないか？」
現在関連する内容のチュートリアル等を企画中です。
また，テーマに直接関わらない一般のご発表も歓迎いたします。

発表申込先：高梨克也 takanasi@crl.go.jp Tel. 0774-95-2433 Fax. 0774-95-2429

【申込内容 (E-mailでお願いします。)】 申込締切：2001年 9月17日(月)

題目：
著者：(発表者には○)
氏名(よみがな)： 会員番号 所属
論文内容：(50字程度)
連絡先：(住所，氏名，E-mail，Tel，Fax，当該研究のWeb page URL，第一著者のWeb page URL)

第46回 基礎論研究会 (SIG-FAI)・第54回 知識ベースシステム研究会 (SIG-KBS) 合同研究会

テーマ：「アクティブマイニング」および 一般

最近の計算機技術と情報通信技術の発展に伴い，大量のデータが蓄積されるようになり，データマイニング・知識発見の手法の有効性が検討されてきました。しかしながら，これまでの研究成果から，以下の手法が必要であることがわかってきています：(1) 分散し存在する情報源の中から必要なものをシステム自らが能動的に探しに行く仕組み，(2) 多様な形態の情報源の中から，ユーザの目的や興味など価値観を反映した重要・有用と思われる知識を発掘する手法，(3) 発掘された知識をユーザにとって俊足かつ容易に把握可能な形で表示し，対象への理解を深め，知的創造性を刺激し，それより新たな知識発掘の糸口を誘発する仕組み。このような手法を人工知能の立場からとらえた「アクティブマイニング」と名づけた研究がはじまりつつあります。本研究会では，アクティブマイニングに関連する演題を募集致します。

日時：2001年11月12日～13日 場所：はこだて未来大学 (<http://www.fun.ac.jp>)
照会先：津本周作(島根医大) tsumoto@computer.org 松原 仁(はこだて未来大) matsubar@fun.ac.jp
(新田克己(東工大) nitta@dis.titech.ac.jp，櫻井彰人(北陸先端大) asakurai@jaist.ac.jp にもCcをお願いします。)

【申込内容 (E-mailでお願いします。)】 申込締切：2001年9月29日

- (1) 研究会名 基礎論・知識ベースシステム合同研究会
- (2) 論文題目： (3) 著者と所属：
- (4) 概要(50字以内)： (5) 連絡先： 氏名，所属，所在地，Tel，Fax，E-mail，会員番号

研究会 <開催案内> 聴講参加費無料 資料は希望により 1冊 1,500円で頒布。

第53回知識ベースシステム研究会 (SIG-KBS) テーマ：「インテリジェントWeb」 および 一般
日時：2001年9月14日(金) 10:50-17:30(予定)
場所：三菱電機(株)FAコミュニケーションセンター 名古屋市中区矢田南5-1-14 (JR大曾根から徒歩10分)
照会先：瀧 寛和 taki@sys.wakayama-u.ac.jp

◇プログラム [インテリジェントWeb]

10:50-11:15 「インフォメーションマッチメイキングサーバー」
○林田高志，瀧 寛和，松田憲幸(和歌山大)，堀 聡(ものづくり大)，安部憲広(九工大)

11:15-11:40 「アクティブWEB：動作表現の伝達」

○頼光正典，瀧 寛和，松田憲幸（和歌山大），堀聡（ものづくり大），安部憲広（九工大）

11:40-12:05 「保守技能のコンテンツ化・再利用の構想」 ○堀聡，高橋正明，松本宏行（ものづくり大），松浦哲也（メルコトレーディング（株）），瀧 寛和（和歌山大）

昼休み 12:05-13:10

13:10-13:35 「個人ホームページのハイパーリンク分析による暗示的コミュニティの抽出」

○中田豊久（北陸先端大）

13:35-14:00 「Cocitation Algorithmに基づくWebコミュニティ発見」 ○村田剛志（国立情報学研）

14:00-14:25 「知的モバイルエージェントによるWebページ構築フレームワークMiPageの実装」

○福田直樹（名工大），副島大和（松下通信工業），伊藤孝行（北陸先端大），新谷虎松（名工大）

14:25-15:00 「機械学習による情報共有Webサーバのアクセスログのセグメント化」

○前田美幸，池谷季里子，尾崎知伸，嶋津恵子，古川康一（慶應大）

休憩 15:00-15:15

15:15-15:40 「Webカタログを利用した製品構成ツール」 ○Niall Murtagh（三菱電機）

15:40-16:05 「生垣上の反単一化を用いた情報抽出手法の提案」

○福田賢治，石野 明，竹田正幸，松尾文碩（九大）

休憩 16:05-16:20

16:20-17:00 FAコミュニケーションセンター見学

17:00 終了

.....
第45回人工知能基礎論研究会 (SIG-FAI)

日時：2001年9月21日（金） 場所：東京電機大学（神田キャンパス）11号館17階大会議室

テーマ：一般，小特集「20世紀の人工知能を振り返って（21世紀の人工知能の展望）」

招待講演：大須賀節雄（早稲田大学理工学部），信原幸弘（東京大学大学院総合文化研究科）

◇プログラム 9:35-11:50 [一般セッション(1)]

1. 「帰納論理プログラミングを用いた建築空間の構成過程の分析」 ○杉浦徳利，岡崎甚幸（京大）

帰納論理プログラミングを建築デザインにおける人間のデザインプロセスの分析に応用する。

2. 「相関ルールの評価指標について」 松本一教（東芝）

相関ルールマイニングでは，不適切なルールが大量に発見されてしまうことも多い。ルールを絞り込むための指標について議論する。

3. 「自己の報酬を操作する学習エージェントの構築」 ○森山甲一，沼尾正行（東工大）

環境に適した行動を学習するように自己の報酬を適切に操作する学習エージェントの構築について述べる。

11:50-12:50 昼休み

12:50-14:20 [一般セッション(2)]

4. 「Graph Rewriting in Topology I : Operators and the Grammar」

○ Jian-Qin LIU(ATR, Central-South University, China.) and Katsunori SHIMOHARA(ATR)

In this presentation, we will report our recent and original research on our proposed and proven the (a) new theory of (hyper)graph rewriting with advantages in parallism and NP problem solving and merits in the aspects of igorous AI theory and efficient AI algorithms for applications in bioinformatics, molecular computers and molecular electronics (moleware).

5. 「On A Linear Theory of Knowledge State」 房岡 璋（立命館大）

知識状態を各可能世界に対する確信度のベクトル，知識を行列として表現することにより，信念変更の問題を論じる。

14:30-18:00 [小特集セッション]

6. 「ロボットにことばをしゃべらせるには」 月本 洋（電大）

ロボットに言葉をしゃべらせるためには，言語を，想像力と身体を通して物理世界に基礎付ける事が，必要である。

7. 招待講演1 15:15-16:15 「コネクショニズムと高次知能」 信原幸弘（東京大学大学院総合文化研究科）
コネクショニズムでは、記号的表象を外的表象として産出・処理することによって、高次知能が実現されることを論じる。

8. 招待講演2 16:30-17:30 「知的情報技術の本質は何か？」 大須賀節雄（早稲田大学理工学部）
「知」は多様な面を持っているが、ここでは情報技術的側面、すなわちコンピュータにおける知に焦点を当てる。情報技術的な（ということは実用的に価値ある）知は人間に負担を掛けずに高機能を提供する、(1)ヒューマンインターフェースと、(2)高レベルの内部処理、を提供する機能である。これを単一の機能で実現するという考え方は現実的ではない。現実要求される高いレベルの機能は、(a)多種類の、より低いレベルの要素機能の実現と、(b)その複合による高度化の技術、によって達成される性格のものが多く、情報技術的にこれを実現する方式を開発する必要がある。従来のコンピュータ科学の分野では伝統的に、(a)の単一機能のソフトウェアを開発するという考え方が受け継がれてきているが、これのみでは知的機能の実現は困難であり、むしろ今後の知的機能の実現にとって重要なのは(b)の技術開発にある。この部分は、これまでほとんど手付かず、荒地のままに放置されてきたと言っても過言ではない。本講演では許される時間内で筆者らが進めている方式を中心にこの考え方について述べる。

9. 討 論 17:30-18:00

.....
第33回知的教育システム研究会 (SIG-IES) テーマ：「一般」および「情報の可視化と知識マネジメント」

情報は受け手にとって認識可能でなければ意味を持ちません。受け手にとって情報をより認識しやすくする手段としての情報の可視化は、情報の流通量が膨大なものとなりつつある今、非常に注目されている研究対象です。この情報の可視化は、教育/学習の支援においても極めて重要であり、これまでも様々な研究が行われてきています。学習者に情報を提供する際はもちろんのこと、学習者が自分の持っている知識を確認・整理したり、あるいは教授者側が教材や教授方法に関する知識を収集・検証・管理する上でも情報の可視化は重要な役割を果たします。これらのことを背景として、IES研究会では、「情報の可視化と知識マネジメント」をテーマとして第33回の研究会を開催します。その他のIESに関連する研究も幅広く募集しますので、是非、参加・発表をご検討ください。

日 時： 2001年9月29日（土）

場 所： 九州工業大学情報工学部（福岡県飯塚市） <http://www.kyutech.ac.jp/map-j.html>

照会先： 平嶋 宗（九工大） tsukasa@ai.kyutech.ac.jp

◇プログラム セッション1 (10:30~12:00)

(1) 調理の記録とレシピの自動対応付けツールの開発 ○白藤 純, 松田憲幸, 瀧 寛和 (和歌山大)
概要：調理中にセンサが記録したログを、レシピと自動で対応付けさせるシステムの開発。

(2) ゲーム型知的教育システムの学習序盤における教育制御 ○林 敏浩, 福田隆行, 林田行雄 (佐賀大)
概要：ゲーム型知的教育システムの学習序盤における学習者モデル利用を前提としない教育制御手法について報告する。

(3) 事例に基づくプログラム評価支援 ○渡辺博芳, 荒井正之, 武井恵雄 (帝京大)
概要：提示した課題に対して学生が作成したプログラムを事例に基づいて評価する方法について述べ、初等アセンブラプログラミングにおける実現例を示す。

12:00~13:00 休憩

セッション2 (13:00~14:30)

(4) デュアルループモデルに基づく知識マネジメント支援 ○池田 満, 林 雄介, 津本紘享, 溝口理一郎 (阪大)
概要：組織知の創造・継承活動の概念モデルと、それに基づいて試作した知識交流支援フレームワークKfarmを紹介する。

(5) ツールキットシステムとHTML教材の連携 ○野口孝文 (釧路高専)
概要：HTML教材を再利用するために通信機能部品を開発し、我々が開発しているツールキットシステムとの連携を実現した。

(6) 自然言語による統計データの対話的可視化手法 ○松下光範, 前田英作 (NTT), 加藤恒昭 (東大)
概要：自然言語で記述されたユーザ要求に基づいて、大量の統計データを対話的に可視化する手法について述べる。

14:30~14:45 休憩

セッション3 (14:45~16:15)

(7) Error-Awarenessを支援する仮想実験環境の設計法について ○堀口知也 (神戸商船大), 平嶋 宗 (九工大)
概要：仮想実験環境において、学習者が自己の誤りに気づき内省するための情報を現象中に埋め込む技法を述べる。

(8) 探索行動の可視化による実験計画スキル学習支援システム ○中池竜一, 三輪和久 (名大)
概要：シミュレータによる仮想心理実験環境を提供し、探索行動を可視化することで、実験計画スキルの学習を支援する。

(9) 帰納的な知識獲得の支援における可視化された概念構造の効果について

○舟生日出男, 馬場一嘉, 富樫政徳, 若松耕介, 伊丹 誠, 伊藤紘二 (東京理科大)

概要:情報の深層表現の概念構造を可視化する2次元マップをメディアベースシステムに実装し, 評価実験を行った.

16:15~16:30 休憩

セッション4 (16:30~18:00)

(10) 概念マップの半自動構成のための対話内容の可視化に関する検討

○斎藤 一, 前田 隆 (北海道情報大), 大内 東 (北大)

概要:インターネット上の協調学習において, 対話内容から概念マップを構成するための可視化手法を検討する.

(11) グループ学習における討論構造の可視化と意見の把握支援 ○中村 学, 大槻説平 (広島市大)

概要:学習者間で意見の構造を共有することができるグループ学習支援システムについて述べる.

(12) 問題理解を目的とした問題マップ作成支援環境 ○中野 明, 平嶋 宗, 竹内 章 (九工大)

概要:問題へのより深い理解を指向して, 問題間の関係を表す問題マップの学習者による作成を支援する環境を開発する.

論文特集 <募集>

■ 特集「知能メディアの教育応用」論文募集

近年のインターネットの普及により, 計算機をコミュニケーションのための一つのメディアとしてとらえ, より高度に教育応用したいという要求が高まってきています. これに伴い, これらのメディアを基盤とする教育/学習支援に関する研究も, 大きく発展を遂げています. まず, メディアの普及は「メディアとしての計算機を用いた教育/学習支援」をより現場に近いものとし, 多くの実需を喚起しつつあります. また, メディアの高度化はそれを取り扱うための「知的な機能」の必要性をより大きなものとしつつあります. このような状況において, 人工知能の応用分野としての「教育/学習支援」の重要性は今後益々高まってくると予想されます. 本特集は, これらのことを背景として, 「知能メディアの教育応用」に関する最新の研究成果をとりまとめ, 広く紹介することを目指しています.

本特集では, インターネット・GUI技術等を含めた様々なメディアに人工知能技術を加えたものを知能メディアと呼び, 特にその教育的応用を指向した論文を幅広く募集いたします.

○募集分野 コミュニケーションのためのメディアとして計算機を捉え, より高度に教育応用することを指向した研究を幅広く募集します. したがって, メディアを活用した教育システム的设计・開発・評価から, それらのシステムを実現する上での基盤技術あるいは理論, さらに, 人間の学習に関する調査・モデルまで含みます. 以下, いくつかキーワードを挙げますが, あくまで参考ですのでここに含まれていない場合でも, 「知能メディアの教育応用」に関するものであれば, 是非投稿ください.

知的CAI/ITS, ILE (対話的学習環境), 訓練システム, オーサリングシステム, CSCL/協調学習/グループ学習, 遠隔教育/学習, 生涯学習, Web Based Learning, Web Based Training, 音声処理, 画像処理, ヒューマンインタフェース, 対話システム, 学習者モデル, エージェント技術, インターネット, WWW, VR, 可視化技術, e-Learning, Knowledge Management, 認知モデル, 学習理論, メディア理論, 動機づけ

○投稿締切 2001年11月1日(木) 通常の投稿手続きに従い, 原稿と封筒の両方に「知能メディアの教育応用」投稿論文と朱書き, 学会事務局にお送りください. なお, 特集論文は2002年7月号掲載予定です. 論文の査読は通常の手続きに従い行います. 論文内容および査読の結果によっては, 特集論文ではなく一般論文として取り扱わせて頂くこともありますので, ご了承ください.

○編集委員会構成 編集委員長:岡本敏雄(電通大)

編集委員:坂元 昂(メディア教育開発センター), 上野晴樹(国立情報学研), 中川聖一(豊橋技科大) 国藤 進(北陸先端大), 美濃導彦(京大), 大槻説平(広島市立大), 溝口理一郎(阪大), 竹内 章(九工大), 伊藤紘二(東京理科大), 渡辺成良(電通大), 池田 満(阪大), 横田 毅(日立), 吉川 厚(NTTデータ), 三輪和久(名大), 仲林 清(NTT-X)

編集幹事:山本秀樹(沖電気), 松居辰則(電通大), 高岡良行(東光精機), 平嶋 宗(九工大)

○最新情報については, 下記の人工知能学会知的教育システム研究会ホームページを参照ください.

http://www.minnie.ai.kyutech.ac.jp/SIG-IES/

○論文送付先 〒162-0821 東京都新宿区津久戸町4-7 OSビル402号室 人工知能学会 編集委員会 Tel. 03-5261-3401 editor@ai-gakkai.or.jp

○照会先 〒820-8502 福岡県飯塚市川津680-4 九州工業大学情報工学部知能情報工学科 平嶋 宗 Tel. 0948-29-7618, Fax. 0948-29-7601 tsukasa@ai.kyutech.ac.jp

<協賛>

システムインテグレーション部門学術講演会(SI2001)

主催：計測自動制御学会

期日：2001年12月20日（木）～22日（土）

会場：名古屋工業大学

連絡先：藤本英雄 Tel. 052-735-5330

si2001@vier.mech.nitech.ac.jp

http://www.sice.or.jp/

第8回エレクトロニクスにおけるマイクロ接合・実装技術シンポジウム 主催：溶接学会

期日：2002年1月31日（木）～2月1日（金）

会場：パシフィコ横浜

連絡先：Mate2002事務局 Tel. 06-6879-8698

mate@jwri.osaka-u.ac.jp

http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jws/research/micro/

Mate2002.html

HUMANOIDS2001

主催：早大ヒューマノイド研究所

期日：2001年11月22日（木）～24日（土）

会場：早大国際会議場

連絡先：事務局 Tel. 03-3203-4386

humanoids2001@shalab.phys.waseda.ac.jp

http://www.humanoid.waseda.ac.jp/Humanoids2001

シンポジウム

「生態機能を生かしたロボット研究の最先端」

主催：日本ロボット学会

期日：2001年11月20日（火） 会場：工学院大学

連絡先：講習会係 Tel. 03-3812-7594

rsj-serv@jade.dti.ne.jp

講習会「ロボット用ソフトウェアの作り方」

主催：日本ロボット学会

期日：2001年10月18日（木）

会場：工学院大学

連絡先：講習会係 Tel. 03-3812-7594

rsj-serv@jade.dti.ne.jp

The 15th International Conference on Industrial & Engineering Applications of Artificial Intelligence & Expert Systems (IEA/AIE-2002)

主催：International Society of Applied

Intelligence (ISAI)

期日：June 17-20, 2002

会場：Cairns, Australia

教 官 募 集

▶ 茨城大学 工学部 情報工学科

募集人員 教授または助教授 1名 (情報システム講座所属)

専門分野 ソフトウェアシステム開発の分野, 情報ネットワークの分野, 情報工学の主要分野

着任時期 2002年4月1日までの早い時期

応募資格 情報工学または関連分野における博士号を有する方。教授については、大学院博士後期課程の学生指導が可能なこと。

提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 希望職名, 代表的学術誌論文10編の別刷各1部, 教育・研究計画, 本人の所見を求め得る方2名の氏名(所属・住所・職名・電話番号)

応募締切 2001年 9月17日

送付/照会先 〒316-8511 茨城県日立市中成沢町4-12-1 茨城大学工学部情報工学 学科長 加納幹雄

Tel. 0294-38-5131 Fax. 0294-38-5282 kano@cis.ibaraki.ac.jp

▶ 岐阜大学 工学部

募集人員 教授 1名

専門分野 情報工学・情報科学分野。現在、岐阜大学にはバーチャルシステムラボラトリー (VSL) が設置されている。この施設を有効利用できる方が望ましい。

着任時期 2002年 4月 1日

応募資格 博士の学位を有し、大学院博士後期課程の指導ができる方

提出書類 (1)履歴書, (2)業績一覧表(論文, 著書, 特許など), (3)主要論文別刷, (4)健康診断書, (5)応募者本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先

応募締切 2001年 9月30日

送付/照会先 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学 工学部 応用情報学科長 田中嘉津夫

Tel. 058-293-2741 tanaka@tnk.info.gifu-u.ac.jp

▶ 近畿大学 理工学部 情報学科

募集人員 講師・助教授または教授のいずれか3名

専門分野 情報系（情報処理、ネットワークなど）

着任時期 2002年4月1日

応募資格 就任時に概ね50歳以下であること、博士の学位、年齢に応じた教育歴があること。

提出書類 履歴書、研究業績一覧、主要な研究業績の要旨、著書および主要論文の別刷、健康診断書、今後の研究・教育に対する抱負

応募締切 2001年10月15日

送付先 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1 近畿大学理工学部 宗像 恵 理工学部長宛

照会先 理工学部 井谷富里 教務部長 TEL :06-6721-2332 内線(2154)

.....

▶ 福井大学 工学部 知識システム工学科

福井大学工学部では平成11年4月に知能システム工学科が新設され、本年4月に3回生が入学しています（学年定員65名）。学科は知能基礎、知能処理、支援システムの3大講座からなり、知能システムの基礎と応用についての教育研究をおこないます。年次進行による教員定員増などに伴い、新たに教員を募集いたします。新学科にふさわしい清新でバイタリティーのある方々の応募を期待します。

募集人員 福井大学工学部知能システム工学科 教授または助教授 3名

（研究分野や経歴などによって、知能処理または支援システム講座に所属していただきます。）

専門分野 知能情報処理、認知科学、創発システム、知能ロボット、介護・福祉ロボット、システム制御、マイクロマシン、人工知能、知的システム、適応学習システム、進化システム、マルチエージェント、など知能システムに関連する分野

就任時期 可能な限り早い時期

応募資格 博士号の学位を有する方。国籍は特に問わないが、日本人学部学生の教育に意欲のある方。大学院博士前期・後期課程を担当できる方。

提出書類 (1) 履歴書

(2) 研究業績（学術論文、レフリー付き国際会議論文その他の論文・著書、特許など）

(3) 研究論文の別刷りまたはコピー

(4) 主要論文12編（助教授を希望する場合は8編）の要旨（各200字程度、貢献度を付記する事）

(5) 過去の研究内容および教育内容（なければ大学教育についての意見等）

(6) 今後の教育・研究に対する抱負（2,000字以内）

(7) 参考となる意見を伺える方2名の氏名と連絡先、可能ならば推薦書

応募締切 2001年12月21日 ただし、応募期限以前に適時選考を進め決定する事がある。

送付/照会先 〒910-8507 福井市文京 3-9-1 福井大学工学部知能システム工学科 学科長 朝倉俊行

Tel. 0776-27-8540 Fax. 0776-27-8748 asakura@scmc.mech.fukui-u.ac.jp

.....

▶ 中京大学 情報科学部 情報科学科

募集人員 以下の各分野毎に、教授、助教授または講師 1名 合計2名

専門分野 (1)ネットワーク関連分野、(2)情報科学の基礎的分野

応募資格 原則として博士の学位を有し、専門分野(1)では、ネットワークに関連する分野に精通し、ネット運用への見識を有し、専門分野(2)では、記号処理、プログラミングなど、情報科学の核となる基礎的分野に精通し、当該分野の教育・研究に熱意のある方。

着任時期 2002年4月1日

提出書類 履歴書（学歴、職歴、学会活動、所属学会名）、研究業績（査読付き論文、国際会議、著書、解説論文、特許、学会口頭発表、その他）、主要論文別刷（5編以内、コピー可）、教育業績（実績）、着任後の教育活動に関する抱負（1000字程度）、着任後の研究活動に関する抱負（1000字程度）、応募者に関する所見を求め得る方2名の氏名・連絡先、健康診断書

応募締切 2001年11月10日必着

送付/照会先 〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101 中京大学情報科学部情報科学科 主任 奥水大和

hiroyasu@scs.chukyo-u.ac.jp Tel. 0565-45-0971 (ext.6218 or 6653)

「情報科学科専任教員応募書類」と朱書きのこと。

理事会報告

◇第159回理事会

日時 2001年6月29日(金)
 場所 東京大学工学部14号館5F(大セミナールーム)
 出席者 白井良明会長, 田中穂積副会長, 中津良平副会長
 理事: 麻生, 石川, 石塚, 上田, 大河内, 小長谷, 島津, 末田, 新田, 萩田, 松原, 松本, 丸山, 監事: 加藤守利
 オブザーバー: 毛利友治
 委任状: 理事: 岸, 前田
 監事: 山本昌弘
 顧問: 志村正道, 白井克彦
 (理事出席者: 20名<定足数14名>理事会成立)

<議題>

- ・前回理事会議事録の確認
- ・新規入会および退会について
 個人会員の入会状況, 退会リストが説明され, 承認された。

01年度5月末の会員状況

正会員	2,783名
学生会員	446名
賛助会員	129名
特殊購読会員	93名

- ・編集委員会
- ・研究会運営委員会
- ・企画委員会
- ・大会委員会
- ・研究集会審議委員会
- ・広報委員会
- ・活性化委員会
- ・財務委員会
- ・総務委員会
- ・その他

新規入会

2001年6月度変更理事会で承認された新規入会の方々は次のとおりです。
 (会員番号, 敬称略)

- ◇正会員 朝康博(日立製作所), 浅井俊郎(NGO WFM Japan 北海道 WFM ネットワーク), 五十嵐建平(東工大), 石田智也(野村證券), 市川岳史(OA研), 伊藤龍太郎(インデックス), 岩垣守彦(玉川大), 尾形薫(エイ・ジー・アイ), 鬼塚健太郎(松下技研), 表寛樹(富士通 ハイパーソフトテクノロジー), 加地大介(埼玉大), 神場知成(日本電気), 喜田昌樹(大阪学院大), 小橋由佳(新日鉄ソリューションズ), 酒井隆道(日本電信電話), 佐藤寛子(国立情報学研), 執行英機(OA研), 白井清昭(北陸先端大), 田中均(OA研), 谷岡広樹(ジャストシステム), 田村憲利(金融エンジニアリング・グループ), 力規晃(徳山工専), 津田和彦(筑波大), 東田あすか(慶大), 徳久雅人(九工大), 内藤泰宏(慶大), 中村啓祐(東工大), 中山洋一(慶大), 永合宣明(OA研), 西山利幸(富士重工), 納富隆宏, 平野章二(島根医科大), 前田章(日立製作所), 松永高明(OA研), 松村幸輝(跡見学園女子大), 光吉俊二(エイ・ジー・アイ), 南山智之(OA研), 宮原豊(富士通), 森本哲生(フレック森本), 山田麻由(NTTドコモ), 吉浦紀晃(群馬大), 良峯徳和(湘南国際女子短大), Ruck Thawonmas(高知工科大)。

- ◇学生会員 秋田祥史(京都工芸繊維大), 畦原宗之(筑波大), 荒井篤子(時事通信社), 五十嵐創(慶大), 池田隆文(東大), 磯貝智崇(東京理科大), 伊藤淑子(中央大), 伊藤直己(九州工大), 伊藤政記(東京理科大), 伊藤雄介(東工大), 上田尚人(早大), 植松幸生(東京理科大), 老川正志(富士総研), 大向一輝(同志社大), 小川健二(慶大), 小川泰正(同志社大), 小澤陽介(慶大), 加藤義清(東大), 川又泰信(茨城大), 木村英志(広島大), 吉良聡(東工大), 倉島敏史(名工大), 黒木あづさ(慶大), 小知和裕美(慶大), 小松正樹(名工大), 斎藤裕介(慶大), 阪本俊樹(大阪市大), 柴武将(ソフトラボ), 副田俊介(東大), 田上深雪(筑波大), 高橋恒一(慶大), 谷岡日出男(筑波大), 谷口英樹(慶大), 玉山武(慶大), 田村謙次(名工大), Cholwich Nattee(東工大), 津本紘亨(阪大), 寺部亮紘(奈良先端大), 戸上真人(東大), 長浜光俊(横浜国大), 長谷佳明(同志社大), 永安悟史(慶大), 西尾泰和(京大), 西村芳男(阪大), 橋本健太(慶大), 濱崎雅弘(奈良先端大), 東谷仁志(矢野経済研), 福田竜太(慶大), 淵側太郎(慶大), 保知良暢(名工大), 堀晃(東大), 前川盛行(慶大), 松井俊浩(名工大), 松坂要佐(早大), 松崎由理(慶大), 松永敬輔(関西大), 水田伯典(同志社), 道坂祐司(大阪電気通信大), 光成亮(名工大), 三村篤志(東大), 三由文彦(慶大), 村松正彦(東工大), 森大助(関西大), 守谷純之介(電通大), 山田洋平(慶大), 吉住貴幸(京大), 米田元洋(慶大), 和田光一(大阪工大)。

採録原稿

2001年6月度および7月度編集委員会で採録された論文は次のとおりです<()内は受理日>。

- ★ 五十嵐治一: 強化学習を用いた自律移動型ロボットの行動計画法の提案 (00.9.14)
- ★ 田中卓史: 論理文法「拡張DCSG」と回路理解への応用 (00.12.18)
- ★ 越野 亮・岡峰 正・木村春彦・広瀬貞樹: 仮説推論の近似解法に関する3種の実験 (01.1.22)